

第50回 労働衛生コンサルタント試験 (健康管理)

健康管理

1 / 4

注：試験問題は全部で4問です。問1又は問2から1問、問3又は問4から1問、合計2問を選択して解答用紙に解答を記入してください。

問 1 放射線の性質及び職場における放射線障害の予防に関し、以下の設問に答えよ。

- (1) 電離放射線は非電離放射線と何が異なるのか簡潔に説明せよ。
- (2) 電離放射線の特徴に関する次に掲げる用語について両者の相違がわかるように簡潔に説明せよ。
 - ① β 線と γ 線
 - ② 実効線量と等価線量
- (3) 電離放射線の内部被ばくに関する次の事項について簡潔に説明せよ。
 - ① 内部被ばくが生じる機序
 - ② 内部被ばく線量の測定法
- (4) 電離放射線の健康影響に関する次の事項について簡潔に説明せよ。
 - ① 確率的影響
 - ② 確定的影響（組織反応）の急性障害
- (5) 放射線業務従事者の眼に生じるおそれがある健康障害に関する次の事項について説明せよ。
 - ① 健康障害の具体的な内容
 - ② 健康障害を予防するための等価線量の限度
 - ③ 健康障害を予防するための措置
- (6) 放射線防護におけるALARAの原則について簡潔に説明せよ。
- (7) 医療現場における放射線防護について次に掲げる事項ごとに説明せよ。
 - ① 照射条件の工夫
 - ② 散乱線の遮蔽
 - ③ 放射線業務従事者の行動に関する留意点
 - ④ 個人用保護具

問 2 ある工場で、インジウム化合物の一種であるインジウム・スズ酸化物の加工工程における研磨作業に従事する作業者に呼吸器疾患（以下、「インジウム肺」という。）が発生したことが明らかになった。以下の設問に答えよ。

- (1) 呼吸器系の構造について説明せよ。図示してもよい。
- (2) 吸入した粒子径と呼吸器内沈着部位との関係について説明せよ。
- (3) 呼吸器系の機能である「ガス交換」について説明せよ。
- (4) インジウム化合物の用途を二つ挙げよ。
- (5) インジウム肺について、以下の問に答えよ。
 - ① インジウム肺の主たる呼吸器疾患名を記せ。
 - ② ①の疾患では、肺のどの部位にどのような変化が生じているかについて記せ。
 - ③ インジウム肺と同様な①の疾患を生じる金属元素を挙げよ。
 - ④ インジウム肺の発症後、長期にわたって発症を確認する必要がある呼吸器疾患を挙げよ。
- (6) インジウム肺が発生した同じ工場に勤務する作業者に対して、発症者と同じ疾患が発生していないかを調査することになった。健康調査項目を「性」、「年齢」以外に五つ挙げよ。
- (7) インジウム化合物を製造し、又は取り扱う屋内作業場での呼吸用保護具の使用について留意すべきことを述べよ。
- (8) インジウム化合物の製造・取扱い作業に関し、インジウムばく露を低減するために必要な対策を「呼吸用保護具の備付け、使用」以外に五つ挙げよ。
- (9) インジウム化合物を譲渡・提供する際に添付される安全データシート（SDS）から得られる職場の衛生管理上有用な情報を五つ挙げよ。

問 3 近年、職場環境が大きく変化しているなかで、仕事や職場に起因する悩みや強いストレスに対処するための労働者のメンタルヘルス対策が重要となっている。それに関し、以下の設問に答えよ。

- (1) メンタルヘルス不調を予防するために「一次予防」、「二次予防」、「三次予防」がある。これらは何を目的とした取組であるか、それぞれについておおむね 20～40 字程度で述べよ。
- (2) メンタルヘルス不調を招くものとして、近年特に注目されている職場の問題にはどのようなものがあるか（ハラスメントは除く。）。 「業務負荷」、「人間関係」、「労務管理」のそれぞれに関して具体的事例を挙げよ。
- (3) メンタルヘルス不調の原因となる行為にハラスメント（いじめ・嫌がらせ）がある。職場のパワーハラスメント、セクシュアルハラスメント、マタニティハラスメントはそれぞれどのようなものであるか簡潔に述べよ。
- (4) 職場の上司あるいは同僚が、部下あるいは同僚のメンタルヘルス不調に早期に気づくことが求められる。職場における「メンタルヘルス不調のサイン」としてどのようなものがあるか、五つ挙げよ。
- (5) メンタルヘルス不調の^こ亢進に伴って懸念される症状や疾病・行為を三つ挙げよ。
- (6) メンタルヘルスケアにおいて重要な「4つのケア」について、それぞれ 50～150 字程度でそれらの内容を説明せよ。
- (7) メンタルヘルスの問題により休職した労働者が職場に復帰する場合、復職者の所属する部・課が心がけるべきこと、及び組織としてあらかじめ準備すべき支援体制について、100 字程度で述べよ。
- (8) メンタルヘルスに関する個人情報適切に保護されないときどのようなことが起こりうるか、例を二つ挙げよ。
- (9) 事業者は、労働者に対してメンタルヘルスに関する情報を理由とした不利益な取扱いをしてはならない。この場合の不利益な取扱いにはどのようなものがあるか、二つ挙げよ。

問 4 労働者に対して行う健康診断に関し、以下の設問に答えよ。

(1) 常時使用する労働者に対し、1年以内ごとに1回、定期に行う健康診断（「一般定期健康診断」という。）について、以下の問に答えよ。

- ① 一般定期健康診断を実施する目的は何か。事業者側と労働者側の立場からそれぞれ簡潔に述べよ。
- ② 例年の受診率が95%前後であって未受診者がほぼ固定されている状態は、どのように評価するか述べよ。
- ③ 未受診者を減らすために、どのような取組があるか、五つ述べよ。
- ④ 事業者が計画的に実施する一般定期健康診断を受診しなかった者に対して、どのような取組が必要か述べよ。
- ⑤ 一般定期健康診断を行った後に事業者が行う事項を六つ挙げよ。
- ⑥ 一般定期健康診断の結果を健康管理上どのように区分するか述べよ。

(2) 労働安全衛生規則で実施が定められている健康診断のうち、「特定業務従事者の健康診断」及び「海外派遣労働者の健康診断」の対象者（特定業務従事者の健康診断については例示でよい。）及び実施時期について述べよ。

(3) 労働者が一般定期健康診断に代えて別途受診した人間ドック等の健康診断の結果について、事業者がその結果の提出を受けたときの取扱いと留意すべき点について述べよ。

(4) 一般定期健康診断の実施時に肝炎ウイルス検査をオプション項目として行うことにした。その意義と配慮について述べよ。

(5) 健康診断の結果（個人票）はどのくらいの期間保存しておくべきと考えるか、一般定期健康診断と有害業務の特殊健康診断を比べ、違いがあるものについてその理由を述べよ。

(6) 産業医が情報機器等を用いて遠隔で健康診断後の保健指導を行う場合に、事業場の体制・仕組みの構築及び使用する情報通信機器に関して事業者が留意すべき事項を五つ挙げよ。